

あすなと高岡

第 12 号



あいさつ

創立五十周年記念事業を終えて

財団法人 高岡市体育協会

会長 塩谷 孝一

高岡市体育協会は昭和二十二年、戦後の社会情勢の混乱のなか、スポーツの普及・振興を目指し、既存のスポーツ団体を総括して創立されました。

以来五十年を経過し、先般、五月二十三日には、創立五十周年記念誌の発刊や記念講演会・記念式典・祝賀会を盛大に催し、その節目をスポーツ関係者一同によってめでたく有終の美を飾ることができました。

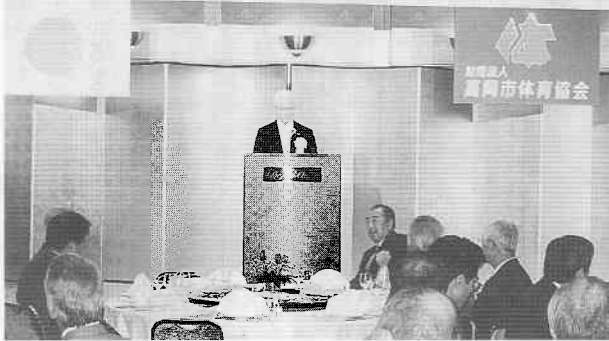
これもひとえに高岡市をはじめ関係各位、加盟団体の絶大なるご支援、ご協力によるものと厚くお礼申し上げます。

さて、本協会も平成四年に「財団法人高岡市体育協会」として、新たな一步を踏み出し、組織、財政の強化はもとより社会的使命の達成、事業の積極的展開など、市民の体育・スポーツ振興の総括団体として、鋭意取り組んでまいりました。創立五十周年を契機に、これからは過去の実績を基に、間近に迫った第五十五回国民体育大会の成功と二十一世紀に向けて、本市が提唱している「市民ひとり一スポーツ」の実現を目指し、加盟団体等との連携を図りながら、一層の努力をする所存であります。

ここに、創立から五十年にわたり温かいご指導とご支援を賜りました関係各位に深く感謝申し上げ、今後とも当協会に對してご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

高岡市体育協会創立50周年記念式典・祝賀

主催 財高岡市体育協会



式典のあいさつ



記念誌と冊子

高岡市体育協会創立50周年 記念事業を終えて

専務理事 川 淵 義 弘

一、厳肅な記念式典

過去、創立二〇年、三〇年、四〇年とその節目毎に功労者表彰を行ってきましたが、今回は半世紀に及ぶ長きに渡って当協会の発展にご尽力いただきました個人五名と一団体を表彰いたしました。式典の冒頭、厳肅な雰囲気の中で、会長から授与されたときにはさすが会場一杯の出席者から、各自の永年の功労を讃え、万雷の拍手があつたのに感銘を覚えました。

また、それぞれの挨拶の中では歴史をたどって、創立の苦難の時代からの想い出、第一三回団体開催や近年の体協財団化の苦労話、そして、二〇〇〇年とやま国体への意気込みなど、それぞれの辞から歴史の重みを感じさせられた。



二、「指導は心」の記念講演

NHK解説委員の西田善夫氏を招き「スポーツ人間の魅力……指導は心」と題して記念講演会を開催したところ、当初の予定よりはるかに聴衆者が多く、急きよ座席を増やすほどの盛況裡に終わったことに感謝しています。

講演内容もスポーツアナウンサーや解説委員としての職業柄、明快な解説と歯切れの良い話術で、長年の多くの体験から「スポーツは心をつくる」という「心の教育と支え」の原点にまで入り込んだ内容、そして「競技場は生きものである」指導

者の発想や寛容が選手の「生きがい」を引き出すことができるんだという話で聴衆を魅了した。

スポーツ指導者のみならず、企業経営者の考え方をもちえようという、まさに記念すべき講演会であつた。

その後、講演内容を冊子にまとめ記念小冊子として発刊いたしました。

記念式典に参加された方や、各機関に配布いたしました方が、もしご希望の方がありましたら体協へご一報下さい。

三、半世紀の歩み

記念事業の一つに体協創立以来の歩みを記した記念誌を発刊いたしました。

約一年がかりで、その資料収集から、聞き取り、写



真の収集など編集委員会（大坂委員長）を中心にして編纂した。記念誌の内容骨子

（A四判二一二ページ）

(1) 体育協会の誕生

（昭和二十二年～三〇年）

(2) 第一三回国体富山大会の開催

（昭和三十一年～三三年）

(3) 国体後のスポーツ振興

（昭和三十四年～四三年）

(4) 創立二〇周年と充実期

（昭和四十四年～五三年）

(5) 創立三〇周年と発展期

（昭和五十四年～六三年）

(6) 創立四〇周年と新たな課題への取組み

（平成元年～現在）

このような歩みを賛助団体を含め、四四競技団体にも上記のような内容で各協会、連盟の歴史をたどってもらった。

編集に当たって当初、東奔西走しながらも得るものが少なく、一つの壁に当たった時期もあったが一念発起、この機にとすれば忘れがちなスポーツ界の変遷や推移また、長い歴史の中で我々の多くの諸先輩方が残された輝かしい業績の数々を後世に伝える責任と、

将来、本市のスポーツの発展のための手がかりとなればという気持ちで委員一同集大成をめざした。

四、盛大な祝賀会

国會議員はじめ招待者、各競技団体参加者、賛助会員、各郡市体育協会、旧現体協役員、企業スポーツ、特別寄稿者、報道関係等、ニューオータニ高岡の鳳凰の間があふれんばかりの総勢二八〇名の大祝賀会になった。

アトラクションをはさみ各層の方々の歴史をたどる想い出話や今後来るべく二〇〇〇年とやま国体を控えての選手強化・準備の苦労話などで、元気に益を交わす光景を見て、さすがスポーツにかかわっている人たちだなということが祝賀会時間延長で立証されました。



主催者側としても大変うれしい限りであり、誠に盛大な祝賀会になったことであらためて感謝申し上げます。

加盟団体紹介 ②

高岡市銃剣道連盟

第4回中部日本銃剣道大会



高岡市銃剣道連盟は、昭和三十七年四月に組織され昭和五十七年七月に高岡市体育協会に加盟し、戸出地区の高岡南錬成館を拠点に活動しています。全長一六六センチメートルの木銃を互いに持ち、防具を付けた相手の（喉）左胸部、左拳の上からの突きを（上胴）、下からの突きを（下胴）を突き合って勝負を競う競技。槍術や剣道に似た武道の一種。二〇〇〇年とやま国体まであと二年余りとなり、連盟は目標に向け、傾注して選手強

化の体制を整え、競技力の向上に努力しています。一般の普及事業として全日本銃剣道連盟より、スポーツアドバイザーの指導者を招へいし、実技講習会を実施して模範的な基本動作及び形、試合を一般に披露しながら広く啓蒙している。又連盟の特色として青少年、一般愛好者それぞれ百官百錬の集いとして、更に進んで斯道の修業として、より多くの愛好者を会員として加入を促し、斯道の普及と会員の拡充、発展を願っている。なお連盟の主たる事業として、全日本優勝大会、全日本選手権大会、全国銃剣道寺井大会、北信越国体国体等各種の競技大会、銃（短）剣道研修会、段級審査会を実施しています。又昭和五十年に県民体育大会に初参加出場した。銃剣道などの優秀選手は地域のスポーツクラブ育ちが多い。連盟は選手強化を社会教育の一環とし、平成九年四月に戸出中、高岡向陵高、大門高、高岡竜谷高の生徒が集まり高岡クラブが発足、高岡向陵高に

銃剣道部が復活するなど、少しずつだが普及のきざしが見えてきた。青少年、特に高校生の指導育成に積極的に努力している。冬、春、夏休みを利用した県外遠征や強化合宿を主体に、県外高校生との交流試合でレベルアップを図り、全国大会に出場しても見劣りしない選手を育成していきたい。平成十年度全国高校生大会に出場して健闘した。まだ日の浅い連盟であるが、今後は銃剣道に対する一般の理解と、これに伴う普及に一層の努力をしたい。（記：橋本峰雄）



第51回

高岡市民総合体育大会

第51回の市体は去る7月11日・12日を中心会期に34競技に小学生から高齢者に至る役員・選手1万千余名の参加により、57会場で各競技に熱戦が展開された。

今回は、城光寺陸上競技場や市民体育館の改修に伴い使用できず、陸上競技は県営五福陸上競技場において、また総合開会式は三協アルミのスポーツセンターで開催するなど関係者の会場確保に苦労があったようですが、幸い天候に恵まれ順調に競技が進行された。



第51回県民体育大会

今年の県体は八月八日(土)から三日間にわたり小矢部市を中心に県内各会場において、小学生から一般に至るまで熱戦が繰り広げられ、本市から第二部の一般の部に二十三競技三四四名、中学の部に十五競技三四〇名が参加し各競技にわたり健闘しました。

総合成績は一般の部一一四点、中学の部九八点でいずれも富山市に次いで二位でした。

種目別高岡市の優勝は次のとおり

◇一般の部

水泳男子

テニス男子

相撲

柔道

クレール射撃

ソフトテニス女子

バドミントン女子

ゲートボール男子

軟式野球

◇中学の部

バスケットボール男・女

ソフトテニス男・女

柔道

ソフトボール女子

バドミントン男子

剣道女子

◆◆◆◆◆
中・高生の
健闘を称える

◆◆◆◆◆
◇平成10年度全国高等学校総合体育大会

今年の高校総体は香川県を中心に四国四県にわたり八月一日の総合開会式を皮切りに開催された。

高岡地区の高校からも、厳しい予選を勝ち抜いた各校の精鋭選手が暑さに負けず各競技に活躍しました。

主な成績は次のとおり

バドミントン男子 高岡工業高校チームベスト8

バドミントン女子 高岡西高校チームベスト8

シンドボール男子 高岡向陵高校チームベスト8

バドミントン女子個単 幡谷好美(高岡西)ベスト8

◇平成10年度全国中学校体育大会

今回は東北ブロックにおいて、15種目にわたり開催され、本市から水泳・陸上競技・柔道・剣道・バドミントンの各競技に23名の選手が参加し健闘しました。中でも南星中女子バドミントンチームがベスト8に入賞し、二年後、地元国体での活躍が期待される。

《スポーツドクター・アドバイス》

筋力トレーニングの目的と実際

高岡市民病院整形外科 山 田 均

平成6年のインターハイを契機に、本県でも科学的トレーニングに対する意識が高まり、筋力トレーニングを練習メニューに取り入れるチームが急増しました。当時の県内におけるアンケート調査では、中学、高校とも約40%のチームが取り入れていました。現在では、さらにその数は上昇していると思います。しかし、その目的と方法をしっかりと理解していないと、せっかくトレーニングを行ってもその効果は半減してしまいます。

筋力トレーニングの目的は単に筋力をつけることだけではなく、競技中の様々な動き（スピード、姿勢）において正確に、かつ力強く反応できるようにすることです。それには従来のように重い重量で行う方法に加え、競技の特性に合わせ軽い重量で回数を多く行うことも大切です。

重い重量で行うトレーニングは、筋肉のボリュームを増やすことが目的です。一回で持ち上げられる最大の重量の70～80%の重量で10回を1セットで行うのが一般的です。この際、もうできないと思っても、人の助けを借りてさらにもう一回余分に行うこと、一回毎の演技において、挙上した後すぐに降ろしてしまうのではなく、挙げきったところで一呼吸おいて、できるだけゆっくり降ろしてくることはトレーニング効果をたかめるコツです。一方、軽い重量で行うトレーニングの目的は神経の指令に対する、筋肉の収縮の反応（神経・筋系協調）を養うもので、バドミントンなど早い動きが要求される競技には非常に大

切なトレーニングです。その重量と回数の関係は図を参照して下さい。

また、トレーニング機器のないチームにおいては二人一組となり、一人が体や関節を固定し、もう一人が抵抗に反して意識的に曲げたり、伸ばそうと力をいれる方法です。体や関節は動かしませんが、これも立派なトレーニングです。とくに腹筋、背筋のトレーニングに応用できると思います。また、この方法は体や関節を痛めている時のトレーニングとしても有用です。

どの方法を選択するにせよ、筋力トレーニングはただ漫然と回数を重ねるのではなく、目的をもって、それに即した方法を選択し、一回一回の演技において実戦をイメージして、真剣に行ってこそ最大の効果を得ることができると考えます。早速、今日からでも試してみてください。

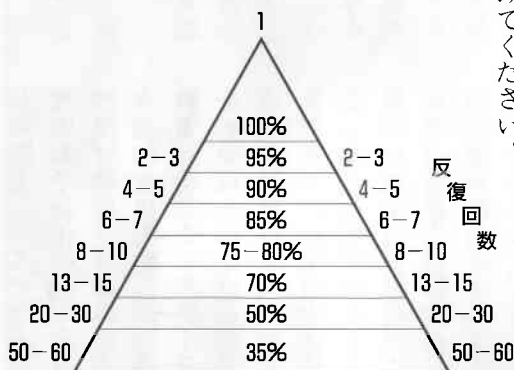


図 負荷重量と反復回数の関係

〔富山県スポーツ振興財団発行
科学的トレーニング情報No.13より引用〕

すぽーつあんぐる

アトラクタ五輪で競泳チームの監督を務められた方とお話する機会がありました。その中で「指導と研究」が話題となりました。

競技力の微々たる向上のために世界中の指導者と研究者がしのぎを削っていますが、どうも日本では「指導者と研究者の連携」がうまく取れていないようです。それは日本の研究は学術的な色合いが強く「指導のための科学的検証」に主眼がおかれていないことが多いからかもしれません。

研究による知識の蓄積はスポーツの指導現場に有用なことですが、「知識も道具」なので、研究者の「現場での使いやすさ」をもっと考えた取り組みと、指導者も自分の経験のみに頼らず科学的検証を取り入れた指導法の開発など、双方の努力と歩み寄り」が今後の科学的トレーニングの普及発展と競技力向上に結びつくようにお願いします。

平成10年度 評議員会

● 5月8日(金)
● 高岡商工ビル



画並びに収支予算

〈平成10・11年度役員〉

会長 塩谷 孝一

副会長 谷道 巖・本保 菱雄

豊本 弘・荒井 武夫

大坂 昭輔

専務理事 川淵 義弘

常務理事 高倉 正和・福尾 博志

理事 狩野 忠則・高野 健一

西 利治(新)・宇於崎 弘

鍋島紀泰(新)・宮崎 恒

堺 三徳・宮崎 外行

谷内 浩仁・橋 修

駒井 進一・中 寶

福田 宗志・京田 和男

魚谷美佐栄・清水 芳隆

畠山建雄(新)・坂本雅則(新)

監事 川中 享・毛利喜久夫

受賞おめでとうございます

〈表彰者〉

☆表彰状

大井昭一(柔道連盟理事長・副会長・理事長)・並木正雄(ソフトボール協会副会長)・中 寶(ソフトボール協会理事長・副会長)・田畑

勝峰(バレーボール協会理事長)・

萩原隆夫(バスケットボール協会理事長)・滝田 悟(全日本パワ

リフティングマスターズ選手権大会50歳以上75kg級優勝)・谷内

政宏(全日本マスターズ選手権大会40歳以上60kg級優勝)・越田芳

成(全日本教職員バドミントン選手権大会一般男子3位)・今井彰

宏(全日本総合バドミントン選手権大会男子復3位他)・増本幸俊

(全国青年相撲大会無差別優勝)・植原明美(全日本選抜インド

ソフトテニス大会優勝他)・佐々

木忍(全日本教職員バドミントン選手権大会一般女子単優勝他)・

横山里美(全日本教職員バドミントン選手権大会一般女子復優勝

勝)・谷内貴昭(全日本社会人バドミントン選手

権大会男子単優勝)・裏地

美香(全日本選抜インドア

テニス大会優勝他)・紺谷

幸一(全日本社会人バドミ

ントン選手権

大会混合復準優勝)・大山宏司(全

日本社会人バドミントン選手権大

会男子復優勝)・本田和裕(全日本

社会人バドミントン選手権大会男

子復準優勝)・今井紀夫(全日本バ

ドミントン選手権大会男子復優勝

他)・明石由美(全日本バドミント

ン選手権大会一般女子復3位)・

高橋善孝(全日本レスリング選手

権大会3位他)・山田潤子(全日本

社会人バドミントン選手権大会一

般女子復3位)・三協アルミニウ

ム工業(株)バドミントン部(全日本

実業団バドミントン選手権大会準

優勝)・立山アルミニウム工業(株)

女子ハンドボール部(全日本ハン

ドボール選手権大会)・トナミ運

輸(株)バドミントン部、タカギセイ

コー・フェアリーズ(日本実業団

ソフトテニス選手権大会3位

他)・塩谷建設(株)女子柔道部(全日

本実業団柔道団体対抗大会2部優

勝)・富山県選抜成年女子(国民体

育大会バドミントン競技3位)

☆感謝状

本江 直之(ゲートボール協会)

五十嵐松治(相撲連盟)

大野 栄作(卓球協会)

天野 青春 (バウリフティング協会)

横田 光一 (水泳協会)

酒井 浩文 (水泳協会)

政地 慎二 (ソフトテニス連盟)

大橋 豊 (バレーボール協会)

宮下 光雄 (陸上競技協会)

石田 昇 (アマチュアボクシング連盟)

〈加盟団体新役員〉

●会長

ハンドボール協会 永田 義邦

柔道 連 盟 江嵐 賢治

相撲 連 盟 宮本 弥生

体操 協 会 山崎 義平

●理事長

ヨット 協 会 越田 哲也

水 泳 協 会 樋口 幸良

相撲 協 会 山本 雅信

〈体育保健課の異動〉

平成10年度の異動で狩野忠則課長が国体準備局の参事総務課長に栄転され、新たに西利治氏(市町村会出向)が課長に就任する。また、社会教育主事の村田憲三氏が県の二〇〇〇年国体局へ栄転し、後任に横越建之氏(一上工業高校)が着任する。

二〇〇〇年とやま国体

高岡市実行委員会事務局とは第五回国民体育大会の開催に向けて、大会予算の編成や大会運営を円滑に推進するための実施本部の設置業務、広報啓発、さらには民泊の進め方などさまざまな準備業務に取り組んでいます。とりわけ来年度は、七月から十一月にかけてリハーサル大会が開催されることから、競技団体はじめ関係機関・団体のご協力を得ながら、園開催準備に邁進しています。

国体募金にご協力を

この募金は、国体を県民総参加で成功させるため、県内の経済、社会団体等の民間団体からなる国体募金推進委員会が、広く県内外の各界の方々および県民の皆さんのご協力を呼びかけています。集められた募金は富山県へ寄付され、国体の運営に役立てられます。市内のスポーツ・文化施設などに募金箱、金融機関(郵便局除く)に募金箱と振込用紙が配置されておりますので、皆様のご協力をお願いします。

加盟団体紹介 ②

高岡市自転車競技協会

二〇〇〇年とやま国体自転車競技ロードレースが、氷見、高岡両市での開催となり、それに向けて協会再編成をして三年目に入りました。

活動の柱は選手強化と競技運営スタッフの養成です。

選手強化は現在成年一部五人、二部十人のメンバーです。

昨年の大阪国体は、山崎良洋君が出場しましたが、残念ながら満足のいく結果は残せませんでした。

県の強化指定選手の山崎君、米津篤司君を中心に、高岡向陵、氷見高校の部員が卒業後も我々の一員として、地元で競技を続けてほしいものです。

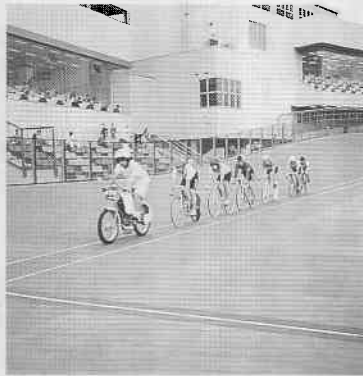
成年二部は八月二日の県体で、原野直樹君の活躍で郡市対抗で氷見市に次いで二位となりました。未経験者が気軽に自転車競技に取り組み易い状況をバックアップして、底辺の拡大を図り、

全体的なレベルアップを目指したいと思っています。

競技運営スタッフは、公認審判員資格者として、二級3人、三級10人が取得しました。

国体ロードレースコースもほぼ決定し、今年の中部八県対抗、九九年プレ国体の都道府県対抗競技大会等で競技運営、審判員等を経験して、本番に望みたいと思います。

二〇〇〇年とやま国体では、地元高岡の選手がロードレースに出場し、協会スタッフが運営協力をし、そしてコース沿道の市民の皆さんの大声援を受け、上位入賞すればと願っています。



◆◆◆ 〇〇 紹介 ◆◆◆

「11000年とやま国体」 をめざして



高岡市立伏木中学校

三年 安田 吉宏

最高記録は1m89cm。まだまだ未知の可能性を秘めています。冬季練習ではジャンプ系のトレーニングに力を入れ、バランスのとれた筋力を身につけました。今年は城光寺陸上競技場での練習ができないため、競技会では助走、踏み切り、空中動作などを一本一本細かくチェックし、順調に記録を伸ばしてきました。

走り高跳びというのは、自分の身体がバーを超えるか超えないかは紙一重で、ほんのわずかでも踏み切りや呼吸などのタイミングが

ずれるとバーは落ちてしまいます。本人は自分の身体が空中に浮いているこの瞬間がたまたなく好きだと言っています。

8月22日から山形県で行われる全国大会で活躍しており、今後の目標は2000年とやま国体で活躍できる選手になりたいという夢を持っています。これからが期待される選手です。

高岡市体育施設の改修

高岡市においては、来たる「二〇〇〇年とやま国体」に備えて、昨年より、会場となる施設の改修が進められている。

○城光寺野球場は、昭和四十八年に竣工し、以来部分修理はなされてきたが、今回はグラウンドの土の入れ換え、メインスタンド客席の設置、バックスクリーンの改良など大々的に改修が行なわれ、去る五月に工事が完了し、高校野球の名門PL学園の招待により、これからおとしが開催された。

○城光寺陸上競技場は、メインスタンド内・外部の改修と電気設備

の改良、フィールドの整備、写真判定塔の設置、その電気設備の改修がなされており明年の四月に工事が完了する予定。

○市民体育館は、バドミントンコートが十面確保できるようにアリーナの拡張、電気設備と証明の改良、屋根の防水、客席の整備などの改修が行なわれており、十月の完成にはバドミントンの日本リーグが開催される。

へ12月までの主な行事

- 前田杯バレーボール大会
9月20日(日)
男子・富士薬品体育館
女子・高岡工業高校体育館
- 前田杯ソフトテニス大会
10月10日(祝)
スポーツコア庭球場
- 万葉マラソン・市駅伝競走大会
11月8日(日)
- 県駅伝競走大会
11月22日(日)
- スポーツ医科学シンポジウム
11月下旬

賛助会費の

納入についてのお願い

会員各位には日頃より当協会に對し格別のご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

平成10年度の賛助会費を今受付けておりますが、会計事務処理上、12月までにご納入いただくようご協力を
お願い申し上げます。



編集◆後◆記

創立五十周年の記念事業も無事に終了し、今回はその特集を中心に編集しました。

五十年にわたり、関係者の積極的な協力に築かれた成果のひとつをつと、この節目にあたり、しっかりと見つめていくことは大きな意義があります。

本協会もこれを契機に将来の展望に立ち一層の努力が必要と思われます。

「あすりと高岡」も年二回の発行ですが、今後内容の充実に努め加盟団体やスポーツ愛好者との広報を通して連携を深め、スポーツ振興へ役立てたいものです。